

経営理念のご紹介

安曇川町にお世話になり27年

ニッケイ工業株式会社

相談役 森田 光雄氏

弊社は昭和41年、京都市山科区にて「林工業株式会社」として創業の「ポリエチレンフィルム」の製造メーカーにて創業59年を迎えております。ポリエチレンフィルムは最も汎用的な包装材料・産業資材として使用されており、身近な商品では「レジ袋」「ごみ袋」「食品包装分野」等があり、国内では約50万tが生産され、弊社はその約1.2%の製造を担っております。

平成11年、安曇川町に本社工場を移転、27年目を迎えます。日本の石油化学産業は昭和30年代半ばに勃興、石油化学メーカー及び樹脂加工メーカーが乱立、過当競争の経済環境下で「林工業株式会社」は出光石油化学(株)の側面援助の基に創業いたしました。経営陣の「放漫経営」及び「過当競争」にて赤字経営が慢性化し、昭和62年に倒産を回避すべく出光石油化学(株)の子会社として再出発いたしました。大企業の傘下となった当社は飛躍とは裏腹に欠損経営と併せて「不祥事故」が頻発、平成6年6月小生が第7代目の代表取締役として出光より出向いたしました。経営再建を目指し、従業員と一体となつて経営分析の結果「外注加工先の集約」「物流体制の再構築」「不採算分野からの撤退」等を推進、平成10年度には「黒字転換」の目的が実現いたしました。黒字化の目処を得た為、親会社の出光へ「設備投資資金の援助」

を要請いたしました結果、折からのバブル崩壊に伴い金融界では「貸し剥し、貸し剥り」が蔓延、資本金10億円の出光興産(株)は二兆五千億円の有利子負債を抱え、銀行から返済を迫られ、全国の自社ビル・社宅等の売却に奔走、コア事業でもない弊社に対し「会社存亡の危機に投資など論外!」「会社清算命令」が下されました。私は指示に従い「会社清算」を推進し、出光興産へ戻ればよかつた訳ですが、「従業員の生活」「外注協力会社の方々の生活」お得意様への供給責任」等悩みに悩み、眠れぬ日々を過ごしました。「何とか事業を継続し、従業員・外注協力工場の方々の生活を守りたい!」との想いで私が当社に出向前に勤務してまいりました出光/本社時代に尊敬しておりました後藤義昭氏(現弊社会長)に相談の結果、「会社としては援助できないが、森田君夫妻が命を懸けて経営するならば銀行保証をしてあげよう!私の保証があれば数億円の融資は受けられる!その資金で事業承継と安曇川での新工場建設をしよう!」とのことで平成10年10月、私は(株)出光興産を退職(当時54歳)、商号を「ニッケイ工業株式会社」へ変更、平成11年5月本社工場を竣工、平成14年5月新加工センター(印刷・製袋外注先)竣工、今日を迎えております。

当地の魅力

当地に移転し地域の皆様とお話しする機会を度々持たせていただきましたと、再三質問を受けることは「何でニッケイさんは安曇川に来たんですか?」でした。私が何を以てそのような質問をするんですか?と問いますと、次の意味でした。

「交通が不便でしょう!」「雪がたくさん降るでしょう!」「庶民は閉鎖的でしょう!」等でした。当該質問に対し、度々叱責したことを思い出します。

- ・当地は日本の隣に位置づけられており午後六時までに出荷すれば翌日には大分県、宮城県まで翌日配達圏にありオールジャパンの観点から見れば製造業にとつて素晴らしい立地ですよ!大阪梅田まで新快速電車で約70分、毎日梅田のデパートに買い物に行くのなら不便かもしれないが通常生活では何ら問題ないでしょう!
- ・積雪も平均30cm程度でしょう!秋田、山形の豪雪地域から見れば比較にならないレベルの積雪ですよ、融雪設備も整っており何ら不自由したことはないです。
- ・社員の方々は勤勉な方が多いですし、基本的に真面目で非常に生産性が高いです。
- ・比良山系の伏流水が豊富にて工場内の空調に活用させて戴いております。真夏の室温は35℃以下に保たれており快適な職場環境が整備されております。製造業にとりまして「水資源」が豊富なことは最大の財産です。併せて土地価格は安価ですし、山海の幸は豊富にて地酒も極めて美味にて素晴らしい土地に移転させて戴いたことに感謝するとともに当地の素晴らしさを話しました。古くから当地で生活されておられる方々は当地の魅力を理解されておらず、日頃の感謝の念で叱った次第です。私は会社の片隅に自宅を構えており、ベランダで歯磨きをしておりますと通りかかった学生が「おはようございます!」と挨拶をしてくれます。ま

た学校帰りの子どもたちは視線が合いますと「ただいま!」と挨拶をしてくれます。都会生活では味わえない心の温かさを感じさせて戴いております。

経営理念

廃業に直面した弊社ですが、我が社の基本は「あたりまえのこと」を、当たりまえに実行」することに尽きます。極めてわかりやすい言葉ではありますが中々難しいことと思います。

言い換えますと「正しいと思つたことを正しく実行」することと思います。「当たりまえのこと」を、あたりまえに実行」する社風を社員の方々と共有し、絶えず努力を積み重ね社会に貢献、「持続可能な社会」を願っております。「社風」が素晴らしければ、素晴らしい社員が育ちます。

お蔭さまで27年前の出光興産(株)より事業承継し、京都より当地に移転して以来、「リーマンショック」「コロナ禍パンデミック」等の不況下を含め月次決算で一度も欠損経営に陥っていないことを誇りとし、地域社会の皆さま及び社員・家族の皆さまに感謝し、ご紹介とさせて戴きます。

追記 筆者 森田光雄は令和六年七月、満八十歳の齢を迎え代表取締役を退任。長男へ事業承継を行い、相談役に就任しております。

